# 平成 23 年度　認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成 24 年３月
遠野市（岩手県）

## Ⅰ．平成 23 年度フォローアップ結果のポイント

**○計画期間：平成 21 年４月～平成 26 年３月（５年）**

### １．概況

当市の中心市街地活性化基本計画は、まちなか観光の推進による観光客数の増加と、それに伴う中心市街地の通行量増加による賑わい創出を狙いとしている。

基本計画の主要事業である「新とおの昔話村」整備のうち、「旧伊藤家復元整備事業」、「旧蔵復元整備事業」については、事業完了が一年間遅れたものの、今年度末で工事が完了し、本年４月に供用を開始する。

一方、旧伊藤家及び旧蔵復元整備事業と一体的に実施予定であった「とおの昔話村整備事業」については、３月 11 日に発生した東日本大震災によって市役所本庁舎の全壊をはじめ、約 32 億円の被害を受けたことなどから、平成 23 年度は事業の実施を見送ることとなった。

なお、基本計画全体の進捗状況は、全 63 事業のうち 14 事業が完了、ソフト事業など 36 事業が実施中、13 事業が未完了となっている。

計画区域においては、新たな大規模店の出店や撤退等はないものの、震災発生以降、沿岸被災地からの店舗や事務所移転等により、中心市街地内の空き店舗が減少傾向にある。

また、当市が岩手県における沿岸被災地の後方支援拠点として機能していることから、ボランティアや企業、各種団体等の利用によって市内の宿泊施設は満室状態が続いており、稼働率は平年の２倍以上、過去最高を記録している。

一方、宿泊施設の不足に加え、度重なる余震や福島第一原発事故による風評被害、交通インフラの損壊等により、ツアーや修学旅行のキャンセルが相次ぎ、観光客が減少している現状にある。

平成 23 年度における中心市街地観光施設の入込数では、観光シーズンである上半期（４月～９月）において、震災の影響から対前年度比 35％まで落ち込んでいたが、下半期（10 月～１月）にかけては、交通インフラの復旧に加え、ボランティア団体などによる拠点整備等によって宿泊施設の問題も若干ながら解消されつつあり、入込数も対前年度比 48％まで増加するなど、徐々に回復の兆しを見せている。

また、平成 24 年度には、ＪＲグループ等による「いわてデスティネーションキャンペーン」が実施されるほか、震災復興道路として前倒し整備が進められている東北横断自動車道釜石秋田線の一部が開通し、市内初のインターチェンジが供用開始される予定となっており、まちなか観光の推進と震災復興の両面で好機となることが期待される。

## ２．目標達成の見通し

| 目　　標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 多くの観光客が訪れる中心市街地 | 中心市街地の観光客入込数 | 89,869 人<br>(H19) | 100,000 人<br>(H25) | 96,300 人<br>(H22) | ― | ③ |
| 市民と観光客の回遊と交流により賑わう中心市街地 | 中心市街地の歩行者・自転車・バイク通行量 | 4,429 人<br>(H20) | 4,668 人<br>(H25) | 3,501 人<br>(H23) | ― | ③ |

注）①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

## ３．目標達成見通しの理由

### ① 中心市街地の観光客入込数

平成 22 年度においては、遠野市立博物館リニューアル事業や遠野物語発刊 100 周年事業等の取組みによって、目標値の 10 万人に迫る実績を上げている。

また、基本計画では、「新とおの昔話村」の整備による入込数の増加を 12,000 人と見込んでいる。

新とおの昔話村については、平成 23 年度末に旧伊藤家や旧蔵等の一部施設の整備を終えたばかりであるほか、東日本大震災の発生によって昔話村の全面リニューアル工事を平成 24 年度に延期することとなったため、現時点においては、新とおの昔話村整備による事業効果が発現していない状況にある。

震災で落ち込んでいる観光客数の回復が前提となるが、今後、新とおの昔話村整備事業を中心に事業効果の顕在化を図ることによって目標達成は可能であると見込まれる。

### ② 中心市街地の歩行者・自転車・バイク通行量

震災の影響下にも関らず、平成 23 年度の中心市街地通行量は、前年度とほぼ同程度の数値（H22：3,571 人、H23：3,501 人）を維持している。

計画初年度である平成 21 年度（3,378 人）との比較においても 123 人増加していることから、震災による影響を踏まえると、潜在的な通行量は増加しているものと推察される。

また、観光客入込数と同様に、新とおの昔話村の整備による効果が発現されていないほか、まちづくりポイントカードシステム導入事業等、未完了の事業もあることから、今後、震災からの早期回復と計画事業の着実な実施を図ることにより、目標の達成は可能であると見込まれる。

**４．前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由**

前回フォローアップは実施していない。

**５．今後の対策**

引き続き新とおの昔話村の整備を中心に、中心市街地の観光基盤強化に取り組む。

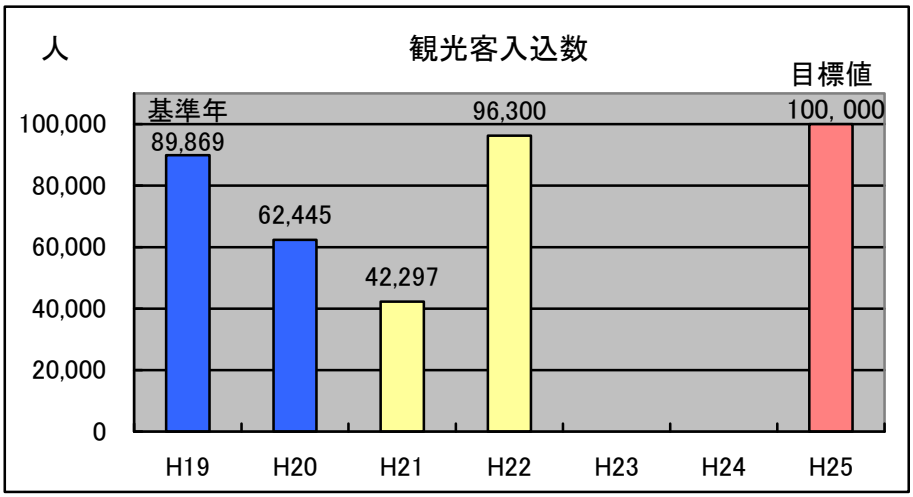
また、平成 24 年度から供用を開始する観光交流センター、昔話村にプレオープンする旧伊藤家や旧蔵の活用を図りながら、いわてデスティネーションキャンペーンとの連携事業に取り組むことにより、震災からの早期回復とまちなか観光の推進を図る。

その他の計画登載事業についても、震災前後の状況変化を見極めながら、見直しや事業追加等の検討を行う。

Ⅱ－１．目標毎のフォローアップ結果「多くの観光客が訪れる中心市街地」

「観光客入込数」　※目標設定の考え方 基本計画 P59～P62 参照

**１．調査結果の推移**




| 年 | （人） |
|---|---|
| H19 | 89, 869<br>（基準年値） |
| H20 | 62, 445 |
| H21 | 42, 297 |
| H22 | 96, 300 |
| H25 | 100, 000<br>（目標値） |

※調査方法：遠野市立博物館及びとおの昔話村の入館料から推計

※調 査 月：平成 22 年３月末時点調査、４月取りまとめ

※調査主体：遠野市

※調査対象：遠野市立博物館及びとおの昔話村の入館者（減免対象者を除く）

**２．目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**

①．旧伊藤家復元整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 中心市街地の主要観光施設である「とおの昔話村」内に市民から寄贈された町家を復元整備し、施設の魅力向上による観光客の増加を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 22 年度から繰越施工中であったが、平成 24 年１月に工事が完了し、平成 24 年４月に供用を開始する。郷土料理等の飲食提供施設として、管理受託者と検討を重ねている。<br>旧蔵、他の村内既存施設等と一体的に整備し、「新とおの昔話村」としての供用開始により、12,000 人の入込数増加を見込んでいる。 |

②．旧蔵復元整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 中心市街地の主要観光施設である「とおの昔話村」内に市民から寄贈された蔵を復元整備し、施設の魅力向上による観光客の増加を図る。 |
| 事業効果又は | 平成 22 年度から繰越施工中であったが、平成 24 年１月に工 |

| | |
|---|---|
| 進捗状況 | 事が完了し、平成 24 年４月に供用を開始する。地域特産品等の販売施設として、管理受託者と検討を重ねている。<br>旧伊藤家、他の村内既存施設等と一体的に整備し、「新とおの昔話村」としての供用開始により、12,000 人の入込数増加を見込んでいる。 |

③. とおの昔話村整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【未】平成 23 年度 |
| 事業概要 | 中心市街地の主要観光施設である「とおの昔話村」の既存施設を全面バリアフリー化するとともに、語り部の通年ライブ等が行える施設として再整備する。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 21 年度に用地取得、平成 22 年度に実施設計を終え、平成 23 年度に工事完了予定であったが、東日本大震災の発生により、平成 24 年度に工事を延期することとなった。<br>旧伊藤家や旧蔵等と一体的に整備し、「新とおの昔話村」としての供用開始により、12,000 人の入込数増加を見込んでいる。 |

④. 屋根付通路整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 23 年度 |
| 事業概要 | とおの昔話村内の既存施設のほか、新たに復元整備する旧伊藤家・旧蔵を屋根付通路で結び、雨天時等でも安心して利用できる施設とする。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 予定通り平成 24 年３月に工事が完了し、平成 24 年４月から供用開始予定である。<br>旧伊藤家や旧蔵等と一体的に整備し、「新とおの昔話村」としての供用開始により、12,000 人の入込数増加を見込んでいる。 |

⑤. 遠野市立博物館リニューアル事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 21 年度 |
| 事業概要 | 中心市街地の主要観光施設である市立博物館内をバリアフリー化するほか、展示施設及び展示内容をリニューアルし、観光客の増加を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | リニューアル前の平成 20 年度（平成 21 年度は工事のため休館）の入込数 22,470 人に対し、リニューアル後の平成 22 年度入込数は 52,410 人（57.1%増）と大きく伸びており、中心市街地の活性化に大きく寄与している。 |

⑥．観光交流センター整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 24 年度 |
| 事業概要 | 市の玄関口である遠野駅前に観光交流センターを整備し、観光案内機能を強化するほか、特産品の販売や情報発信等を行い、市民や観光客の交流による賑わい創出を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 22 年度から繰越施工中であったが、平成 24 年１月に工事が完了し、平成 24 年４月からの供用を開始する。<br>現在、指定管理者となる遠野市観光協会とオープンに向けた調整を進めている。 |

⑦．遠野まちなか趣味の博物館ネットワーク事業（市民団体等）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 21 年度～ |
| 事業概要 | 中心市街地の空き店舗を活用し、市民作品等の展示のほか、無料休憩所として観光情報等の提供を行い、まちなかの回遊と交流の拠点とする。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 「語り部 1000 人プロジェクト事業」による認定を受けた「遠野こだわりの語り部」の活躍の場の提供を兼ね、趣味の博物館「語り部スポット」として平成 21 年度から実施。平成 21 年度は 5,990 人、平成 22 年度は 13,490 人が来館している。 |

⑧．遠野物語発刊 100 周年記念イベント事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 遠野物語発刊 100 周年を記念し、講演会等の文化イベントの開催や語り部の育成を行い、市民の郷土意識醸成と交流人口の拡大を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 全 38 件の記念イベント（共催・後援含む）に約 60,000 人の入場があったほか、マスメディア等を通じたＰＲ（663 件）効果により、市立博物館及び昔話村の入込数増加に大きく寄与した。 |

## ３．目標達成の見通し及び今後の対策

平成 22 年度においては、遠野市立博物館リニューアル事業や遠野物語発刊 100 周年事業等の実施によって観光客入込数が 96,300 人に増加した。

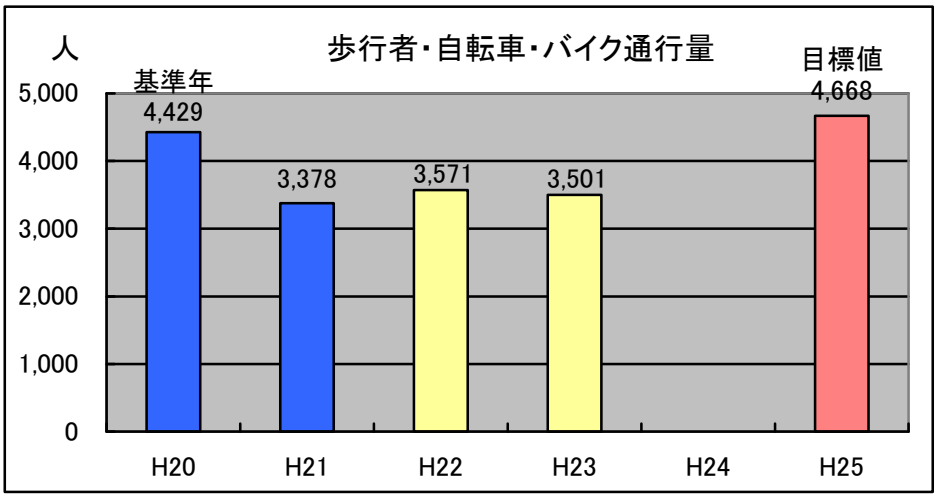
現在、東日本大震災の発生によって観光客数が大幅に落ち込んでいるが、平成 24 年度に実施されるいわてデスティネーションキャンペーンを契機とし、震災からの早期回復に努めながら、未完了事業である新とおの昔話村整備事業を中心に事業効果の発現を図ることにより、目標の達成は可能であると見込まれる。

新とおの昔話村については、今年度中に整備を終え、平成 24 年度にリニューアルオープン予定であったが、震災によってリニューアル工事を見送ることとなったため、平成 24 年度はプレオープンと位置付け、村内に整備を終えた旧伊藤家や旧蔵等を活用しながら、柳田國男没 50 年事業をはじめ、デスティネーションキャンペーンとの連携事業を展開し、観光客の増加を図っていく。

Ⅱ－２．目標毎のフォローアップ結果「市民と観光客の回遊と交流により賑わう中心市街地」

「歩行者・自転車・バイク通行量」　※目標設定の考え方 基本計画 P62～68 参照

**１．調査結果の推移**




| 年 | （人） |
|---|---|
| H20 | 4, 429<br>（基準年値） |
| H21 | 3, 378 |
| H22 | 3, 571 |
| H23 | 3, 501 |
| H25 | 4, 668<br>（目標値） |

※調査方法：歩行者、自転車及びバイク通行量調査（毎年度９月実施）

※調 査 月：平成 23 年９月実施、10 月取りまとめ

※調査主体：遠野商工会

※調査対象：歩行者、自転車及びバイク通行者（平日及び休日５地点）

**２．目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果**

①．遠野市立博物館リニューアル事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 21 年度 |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ５参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 事業の実施によって周辺道路の交通量がリニューアル前の平成 21 年度 358 人/日から平成 22 年度 390 人/日と 32 人/日増加したが、平成 23 年度においては、震災の影響もあり、対前年度比 50 人/日減の 340 人/日となっている。<br>計画では、新とおの昔話村の整備と合わせて 155 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

②．旧伊藤家復元整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ４参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 23 年１月に工事完了し、平成 24 年４月に供用開始予定。<br>供用開始前であるため、現時点での効果測定はできないが、計画では旧伊藤家を含む新とおの昔話村整備と市立博物館のリニューアルにより、155 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

③．旧蔵復元整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ４参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成23年１月に工事完了し、平成24年４月に供用開始予定。<br>供用開始前であるため、現時点での効果測定はできないが、計画では旧蔵を含む新とおの昔話村整備と市立博物館のリニューアルにより、155 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

④．とおの昔話村整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【未】平成 23 年度 |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ５参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 23 年度に工事完了予定であったが、東日本大震災の発生により、平成 24 年度に工事を延期することとなった。<br>供用開始前であるため、現時点での効果測定はできないが、計画では新とおの昔話村整備と市立博物館のリニューアルにより、155 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑤．屋根付通路整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 23 年度 |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ５参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 予定通り平成 24 年３月に工事が完了し、平成 24 年４月から供用開始予定である。<br>供用開始前であるため、現時点での効果測定はできないが、計画では新とおの昔話村整備と市立博物館のリニューアルにより、155 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑥．遠野まちなか趣味の博物館ネットワーク事業（市民団体等）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 21 年度～ |
| 事業概要 | 【再掲】Ｐ６参照 |
| 事業効果又は進捗状況 | 中心市街地内の空き店舗を活用して事業を実施しているが、平成 21 年度に使用した空き店舗に入居希望があり、平成 22 年度から設置場所を変更した。<br>設置場所の変更により、周辺通行量の比較はできなくなったが、計画では趣味の博物館設置により、177 人/日の増加を見込んでいる。 |

⑦. 公営住宅等整備事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 22 年度 |
| 事業概要 | 郊外の市営住宅が老朽化したことから、新たに中心市街地に市営住宅を整備し、まちなか居住の推進を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 21 年 11 月に材木町市営住宅（全６棟 12 戸）の供用を開始し、全戸入居した。<br>周辺通行量については、整備前の平成 21 年度 633 人/日から平成 22 年度が 66 人/日増の 699 人/日、平成 23 年度が対前年度比 129 人/日増の 828 人/日となっている。平成 23 年度の増加は、震災によって調査地点周辺に市役所仮庁舎や仮設住宅（40 戸）が設置されたなどが影響したと考えられる。<br>なお、計画区域外となるが、平成 24 年度に完成予定である稲荷下第二地区市営住宅（32 戸）の整備により、128 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑧. とぴあリニューアル事業（遠野市）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【済】平成 21 年度 |
| 事業概要 | 中心市街地唯一の大型商業施設である「とぴあ（中心市街地活性化センター）」の全面塗装を行い、施設の維持とイメージアップによる利用者の増加を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 21 年度に工事が完了し、供用を開始した。<br>とぴあ増販増客事業、まちづくりポイントカードシステム導入事業と合わせて 127 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑨. とぴあ増販増客事業（協同組合遠野商業開発）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 21 年度～ |
| 事業概要 | とぴあのテナント経営者を対象とした勉強会や共同イベント等の実施により、経営者の意識改革と店舗の魅力向上による利用者の増加を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 19 年度から引続き実施中。<br>とぴあリニューアル事業、まちづくりポイントカードシステム導入事業と合わせて 127 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑩．まちづくりポイントカードシステム検討事業（遠野すずらん振興協同組合）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【実施中】平成 20 年度～ |
| 事業概要 | 中心市街地の小売店の多くが加盟しているポイントカードの多機能化を図るため、新システム導入に向けた調査・研究を行う。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 25 年度からの新システム導入に向け、検討を継続中である。システム導入に伴う機器更新費用が課題となっている。<br>とぴあリニューアル事業、とぴあ増販増客事業と合わせ、127 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

⑪．まちづくりポイントカードシステム導入事業（遠野すずらん振興協同組合）

| | |
|---|---|
| 事業完了時期 | 【未】平成 25 年度～ |
| 事業概要 | 中心市街地の小売店の多くが加盟しているポイントカードについて、エコ活動等の様々な消費ニーズに対応できるよう多機能化を図る。 |
| 事業効果又は進捗状況 | 平成 25 年度からの新システム導入に向け、検討を継続中である。システム導入に伴う機器更新費用が課題となっている。<br>とぴあリニューアル事業、とぴあ増販増客事業と合わせ、127 人/日の通行量増加を見込んでいる。 |

## ３．目標達成の見通し及び今後の対策

平成 23 年度は、震災によって観光客入込数が落ち込んでいることから、通行量についても大幅な減少が懸念されたが、前年度とほぼ同程度の通行量で推移しており、震災の影響を考慮すると、潜在的な通行量は増加していると思われる。

これについては、市役所本庁舎が震災で全壊し、遠野駅前の「とぴあ」内に仮庁舎が設置されたことや、中心市街地の一角に 40 戸の仮設住宅が整備されたこと、沿岸被災地の後方支援活動に伴い、関係者の往来が増加したことなどが影響したためと考えられる。

現在、一時的に観光客数が減少していることを踏まえると、平成 23 年度の実績値は市民を中心とした通行量と考えられることから、今後、新とおの昔話村整備事業をはじめとした未完了事業の実施に加え、いわてデスティネーションキャンペーンと連携したソフト事業によって観光客の誘客を図ることにより、目標の達成は可能であると見込まれる。